

# 新潟職能短大通信

## インターンシップの取り組み

本校では、学生が生産現場を体験することにより、現場の技術の動向などを把握するとともに、高い職業観を養うため、二〇〇三年からインターンシップを導入してきました。

インターンシップは、一年生は春休み期間中から、二年生は夏休み前に体験できる環境を作っています。また、インターンシップの重要性を学生に理解してもらうため、授業科目として「企業実習(4単位)」を設けています。

受入れ企業としては、超越地域を中心とした製造業や建設業が大半です。学生が企業を選定する際、就職活動を考慮して、①業種 ②自分の就きたい仕事 ③通勤時間などを念頭に置いて決めていきます。

インターンシップの派遣期間は、原則として二週間(十日間)ですが、受入れ企業と相談の上、派遣期間を決めています。昨年度までの派遣状況を見ますと、

五日間程度の受け入れが大半でした。

派遣前は、担当教員から①インターンシップの目的や心得

②安全や健康管理など細かな指導がなされ、事故防止に注意を払っています。

さらに、派遣期間中は、教員が受入れ企業を訪問し、学生の仕事ぶりや健康状態、悩み事など無いか、学生の状況把握に当たるとともに、学生は担当教員に電話で定期的に連絡を取っています。

インターンシップ終了後は、学内で報告会を開催しています。学生の感想例として、次のことが挙げられています。

- ①就職したい企業で職場体験ができ、自分に適しているか確認する機会となり、大変有意義であった。
- ②学校生活では得難い貴重な実務経験や仕事に対する意義を学ぶことができた。
- ③現場では、自分から積極的に行動しなくてはいけないことに気づいた。



紙の裁断作業  
(島津印刷株)

④作業段取りの重要性、分からないことを問いたり調べたりすることが非常に重要であることに気づいた。

一方、昨年、ご協力いただいた受入れ企業の感想例としては、次のようなことが挙げられています。

- A社：実習生を受け入れたことにより、当社の実習担当者にとって良い勉強になった。また、学校とのつながりを持って、従業員教育にも生かせると考えている。
- B社：学生の日々の取り組みは極めて真面目であり、一から学ぼうとする姿勢

は、我々(社員)にとっても原点に戻ることを認識させてくれ、有意義であった。

C社：作業の完成度が高く、単調な作業に根気強く取り組んでいた。短大の学生は即戦力となる実力は十分にあると思う。

学生が職場体験をおしりて、より実践的な技術を習得し、地元産業界で活躍することを期待しています。

これからもインターンシップや学生の就職活動にご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新潟職能能力開発  
短期大学校  
能力開発部長 福元 基

(※写真は量してあります。)



ワイヤカット放電加工機の操作  
(三菱マテリアルPMG株)



専攻科ごとの報告会  
(1・2年生全員が聴講)